

令和元年度 農林水産業版タウンミーティング（水産業版）会議概要

日 時：令和元年10月15日（火）15：30～16：30

場 所：後潟漁業協同組合 2階 会議室

参加者数：22名

市側出席者：市長、農林水産部長、農林水産部次長、水産振興センター所長

■昨年度いただいたご意見への対応状況

⇒ 配布資料のとおり

■主なご意見・要望等

- 漁業者の負担軽減を図るため、組合運営の残渣処理施設を建設することとした場合に活用できる補助金等はあるか。

また、あるとすれば、交付率はどのくらいか。

⇒ 残渣の処理施設については、水産庁が実施している「浜の活力再生・成長促進交付金」の「水産業強化支援事業」に、組合による当該処理施設の整備に活用できる助成があり、事業費に対する交付率は1/2以内とのことである。

今後、処理施設について具体的に検討を進める場合は、国及び県との連絡調整や情報提供、資料作成等で市としても協力できるものと考えているので、ご相談いただきたい。

- 青森市水産振興センターが実施している事業は、漁業者にとっては必要不可欠である。是非、今後においても種苗生産の体制を縮小しないよう要望する。

⇒ 水産振興センターでは、本市漁業の振興を図るため、種苗生産、各種調査、種苗生産技術開発、漁業後継者育成の拠点としての重要な役割を担っており、これまで培ってきた様々な経験及び技術等を今後も確実に継承し、改良していく必要があると考えていることから、平成29年度及び平成30年度に新たに水産技師1名ずつを採用するとともに、今年度は、ナマコ等の種苗生産を行う事業について、必要な予算額を措置したところである。

そのうえで、現在、ナマコ種苗の成長にあわせて最も適した餌の種類、与える量及び時期等に関する試験研究や、毎年度の種苗生産の実務経験を踏まえてのマニュアル等の改良、また、他種苗生産施設への視察研修の実施による技術の習得などを通じて、今後とも種苗生産の更なる安定及び増産を図るために努めていく。

- 平成21年に奥内・後潟地区の浚渫の要望書を市に提出し、その要望書には、今後の浚渫は組合内部で解決する旨を明記して助成が実現した。平成22年以降も浚渫問題が発生し組合内部で解決してきたが、年々解決するには時間も費用もかかっている。

現在も当組合管内の漁港に砂が徐々に堆積してきて困っている。このような状況を踏まえ、市としてどのような対応をするのか。

⇒ 平成21年に土砂の浚渫への助成を行う際、「同様の事項についての補助は、将来において受けないこと」を条件に交付した経緯があることから、両地区に点在する船揚場前

面の土砂浚渫に関しては、これまでと同様に組合において解決を図っていただくようお願いするとともに、各漁船の漁港への集約利用を一層推進していただきたいと考えている。

なお、県に確認したところ、漁船が航行または停泊するのに支障があるようであれば、県が行う漁港整備事業の対象として、国または県の補助を受けて漁港の浚渫工事を行うことが可能であるとのことであり、漁港に砂が徐々に堆積している問題については、今後、漁協との連携を密にとりながら状況を見極め、必要に応じて県に要望していく。

- 毎年、青森市後潟地区海岸漂着物地域対策推進事業を実施している。ここ数年事業費が減少しているが、市としてどのような考えかお聞きしたい。

また、漁業者の繁忙期にあたっているのも、もし可能であれば9月頃にすらせないものか。

⇒ 平成23年度以降、毎年度実施している「青森市海岸漂着物地域対策推進事業」は、青森市漁協及び後潟漁協に業務委託して実施しているところである。ここ数年、県の予算額が縮減されたことから、後潟地区の海岸清掃の事業費についても減少傾向にある。

市としては、閉鎖性の強い水域である陸奥湾の良好な水質環境を将来にわたって保全していくためには、陸奥湾という共通の資源を持つ沿岸の市町村等が連携しつつ取り組んでいくことが重要であると考えていることから、毎年度、県に提出している「重点事業に関する要望書」において、海岸漂着物の処理に対して必要な支援を行うよう要望しているところであり、今後においても継続して、県に要望を続けたいと考えている。

実施時期については、国・県の補助事業ということもあり、お預かりして検討させていただきたい。

- 一般廃棄物最終処分場の残余年数が30~40年あるのであれば、漁業資材の受入れについても検討できないか。

⇒ ホタテ残渣については、市町村が処分しなければならないものであり、今後も制限することなく受け入れていくが、漁業資材については産業廃棄物であるため、法律上受入れはできない。引き続き産廃業者による処分をすることとなるが、漁協が処分に困っている状況を踏まえ、市としても産廃業者に話をつないでいきたい。

- 陸奥湾は、きれいになり過ぎてプランクトンが減少し海産物の減少につながるような環境ができてきているのではないかと考えている。市としてはどのように考えているか。

⇒ 海の栄養は山から流れ込むので、山に植林して豊かな栄養が陸奥湾に流れ込むような状況にしないといけないと考えている。

学術的な研究機関とも力を合わせながら、植林などの活動を沿岸市町村で広域的に実施することを最重要事項の一つとして取り組んでいく。

- 青森市産のホタテは他地域に比べておいしいと自負しており、どんどんPRしていただきたい。

⇒ 首都圏で実際に食べてもらう機会をつくるなどしながら、本市のホタテが他と比較しておいしいということをPRしていく。